

平成 25 年度 第 1 回 水工学委員会幹事会 議事録 (案)

日 時：平成 25 年 7 月 4 日 (木) 16:00~19:10

場 所：土木学会 2F A 会議室

出席者：浅沼順、石平博、大石哲、大本照憲、河村明、神田学、篠田成郎、清水義彦、杉原裕司、角哲也、関根正人、竹林洋史、立川康人 (幹事長)、田中則夫、近森秀高、知花武佳 (編集幹事長)、富永晃宏、戸田祐嗣、二瓶泰雄、藤田一郎、松田寛志、道奥康治 (委員長)、武藤裕則、横山勝英 (50 音順、敬称略)

議 題：

《報告事項》

1. 水工学委員会構成 (立川康人幹事長、資料 1、資料 2)

資料に基づき、平成 25、26 年度の委員会構成が示された。

2. 水工学に関する夏期研修会 (富永晃宏委員、資料 3)

名古屋工業大学で 8 月 26 日、27 日に開催される内容について、ポスターを用いて説明がなされた。

3. 全国大会研究討論会 (立川康人幹事長)

水理・水文解析のための汎用プラットフォームの活用と国際展開 (9 月 4 日(水)) について紹介がなされた。

4. 全国大会共通セッション (立川康人幹事長)

水・物質循環シミュレーションモデルおよびデータに関する共通基盤の共有と高度化 (9 月 4 日(水)) について紹介がなされた。

5. 水シンポジウム高知 (立川康人幹事長および松田河川部会長)

シンポジウムの準備状況および第一分科会 (河川部会担当) について、説明があった。

6. 「日本のかわと河川技術を知る一利根川一」 (立川幹事長、資料 5)

順調に販売が伸びており、あと 120 部で採算ラインをクリアするところまで来ており、講義の参考図書などでの利用と購入が要請された。

7. 水理公式集改訂について (道奥委員長、資料 6)

辻本先生 (名大教授) が編集小委員長を担当されることが道奥委員長より紹介された。本年 9 月には編集委員会構成および目次案ができるように委員長から辻本先生に依頼がなされている。着手後 2 年間で発刊するスケジュールで進む予定であることが示された。

8. 各部会、小委員会の活動報告及び活動計画

1) 水文部会 (資料 7-1、浅沼部会長)

平成 24 年度第一回水文部会の内容が報告された。副部会長は風間先生 (東北大学) が担当される。部会内に IHP-RSC 作業グループを設立することとなった。全国大会中に部会、セミナーを開催予定、10 月に福島で水文研究集会を開催予定であることが報告された。

2) 基礎水理部会 (資料 7-2、大本部会長)

4月17日のiRIC講習会の報告、平成25年度基礎水理シンポジウムの案内があった。

3) 環境水理部会 (資料7-3、角部会長)

体制、5/31-6/1に実施された研究集会、H24土木学会重点研究課題に採択された研究内容、教科書WG、樹林化WGの活動について報告がなされた。

4) 河川部会 (松田部会長)

6/5, 6に開催された河川技術シンポジウムの報告がなされた。また、次年度の河川技術シンポジウムの予定が示された。

5) 東南アジア河川 (河村小委員長)

複数の国際会議への参加が紹介された。

6) ISO/TC113 (資料7-4、道奥委員長、藤田委員)

11月10日の週にISOに関連する国際会議がメキシコにて開催予定で、ICHARMが参加予定であることが報告された。

7) 流量観測高度化小委員会 (資料7-5、藤田小委員長)

魚野川および石狩川での合同流量観測について報告がなされた。7月26日に富山県立大学で勉強会が企画されている。来年度の合同観測は黒部川で実施予定であることが報告された。

8) 水害対策小委員会 (資料7-6、竹林幹事長)

メンバー紹介がなされた。ヨーロッパ水害の情報収集、インド水害の情報収集を進めていることが報告された。

9) 水理公式集編集小委員会 (道奥委員長)

小委員長を辻本教授(名古屋大学)が担当され、9月までには編集体制が固まる予定であること、開始後2年間で発刊とする予定であることが報告された。

10) 水理実験指導書編集小委員会 (資料7-7、藤田小委員長)

執筆メンバーと目次案、編集の進行状況が報告された。編集委員会に企画を出して、本編集小委員会の活動旅費をそこから捻出することを考えることとなった。

11) 流域管理と地域計画の連携 (立川幹事長)

河川砂防技術研究開発制度(流域計画・流域管理課題分野)の応募について、より多くの技術者・研究者の応募があるように、国土交通省と協議していく予定であることが報告された。

12) CommonMP 開発・運営コンソーシアム (立川幹事長)

全国大会で共通セッション、研究討論会を開催するので、積極的に参加が依頼された。

9. 社会インフラ維持管理・更新検討TFについて (二瓶委員)

二瓶委員に委員長、幹事長の代理として、本TFのインタビューへの参加を依頼した。その時のインタビューの様子が報告された。建設後30年を経過したダム(国土交通省直轄管理)に関しては、ダム堤体、洪水吐き、その他付属施設、貯水池(堆砂、水質など)の維持管理上の現状評価と課題抽出(カルテを作成)を行う総合点検が制度化されたことが角委員より紹介された。

10. 平成24年度活動評価 (資料8、篠田前幹事長)

平成24年度の活動度評価はAランクであり、それによる平成25年度の配分額は1,202千円であることが報告された。

11. JSCE2010 平成24年度部門別自己評価について (資料9、篠田前幹事長)

平成24年度の自己評価書の作成内容について報告がなされた。平成25年度も同様の報告を年度末

に提出する必要があると思われるため、活動内容や参加人数について記録を取っておくことが幹事長より要請された。

## 1 2. その他

関根論文編集委員長より、論文編集委員会のメンバーと論文編集の現在の情報について報告があった。

### 《協議事項》

#### 1. 平成 25 年度の会議スケジュールについて（資料 1 0、立川幹事長）

今年度の会議日程について説明がなされ、日程が了承された。

#### 2. 平成 25 年度第 58 回水工学講演会の開催について（資料 1 1、大石委員）

今年度の水工学講演会（神戸大学）について、準備状況が説明された。会場費用として 50 万円程度が必要となる見込みであり、これに対応するために、参加費の値上げ、広告収入、展示ブースの設置、各種の外部資金申請が議論された。参加費の値上げ、広告収入、展示ブースの設置については継続して議論することとした。

#### 3. 平成 26 年度第 59 回水工学講演会の開催について（関根幹事）

早稲田大学での開催を検討していることが報告された。予約が 3 か月前でないとできないなどの状況があるが、開催できるよう検討中であることが報告された。引き続き、開催が実現されるよう依頼がなされた。

#### 4. 水工学に関する夏期研修会（資料 1 2、杉原幹事）

平成 26 年度下記研修会は水工学委員会が主担当となり、九州工業大学にて、8 月 25、26 日を候補として検討を進めることが紹介された。水工学委員会からは西部地区委員の鬼東委員に対応をお願いしている。水工学委員会として問題はないので、海岸工学委員会と調整して進めていただくよう依頼がなされた。

#### 5. 次年度水シンポジウムについて（資料 1 3、立川幹事長）

長崎県に打診中であり、7 月 24 日に委員長と幹事長が説明に行く予定であることが紹介された。シンポジウムでの分科会は環境水理部会の担当となり、角部会長に準備の依頼がなされた。

#### 6. 国際対応員会について（資料 1 4、道奥委員長）

現在、設置している ISO/TC113 小委員会や東南アジア河川流域研究小委員会を統合し、それ以外の国際的な対応にあたるための国際対応委員会について、討議がなされた。基本的には前向きに検討していくこととし、継続審議となった。

#### 7. 土木学会論文集の XML 登録について（資料 1 5、大石委員）

J-stage が、現在の PDF 提出から XML 提出に代わる可能性があり、それに対する対応が議論された。基本的には、この作業を外注することになるため、投稿費用の値上げを考える必要がある。土木学会論文集も同様の状況だが、現状では投稿件数が少ないため、実施したとしても大きな問題とはならないと考えられる。水工学講演会に投稿された論文は件数が多いために、検討を要する。国内誌であれば XML 化することの意義は高くないので、他学会誌の様子を見つつ、対応を図っていくこととなった。

8. 土木学会将来ビジョンについて（資料16、立川幹事長）

水工学関連でこれまでに将来ビジョンや提言などの資料を取りまとめたことがあれば、情報提供してほしいとの依頼がなされた。

9. 水工学論文集編集作業について（知花編集幹事長）

- 編集日程について確認がなされた。
- 会場費を捻出するための方策について議論された。継続的に審議することとなった。
- 水工学講演会開催前年の土木学会論文集 No. 1 から 3（水工学講演会開催前年の1月から12月の掲載分）に掲載された論文についても、水工学講演会で発表する権利を与えてはどうか議論された。土木学会論文集の投稿増、水工の投稿減による査読の適正化、水工学講演会が日本最高の水工学の議論の場とできることなど利する点が多いこと、海岸工学講演会ではすでにこうした扱いで実施されており、運用上も困難が少ないと考えられることから、前向きに継続審議することとなった。

○水工学論文賞選考委員会報告

1. 平成25年度水工学論文賞、同奨励賞候補論文について（知花編集幹事長、立川幹事長）

審査結果に基づき協議を行い、論文賞ならびに論文奨励賞の候補を決定した。これらの候補論文を、本委員会に諮ることとした。